

第3章

【「学びを生かそう」とする姿が生まれる単元デザインの工夫】実践例

単元の導入に、完成させたい成果物を示し、学習したことを活用しながら作成していく
取組 ～玉名市立小天小学校（4年国語）～

単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）	
筆者の論の進め方や中心となる語や文を捉えて要約することなど「世界にほこる和紙」の学習で身に付けた力をいかして、「〇〇リーフレット」で伝統工芸のよさを伝えようとする児童。	
単元を通した学習課題	単元で働かせる見方・考え方
「〇〇リーフレット」を作り、伝統工芸のよさを小天小のみんなに紹介しよう。	筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係に着目し、中心となる語や文を捉えたりして言葉への自覚を高めること。



事例について考えを発表する（全体交流）

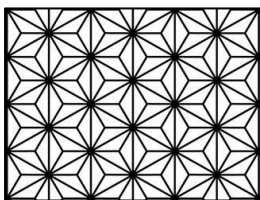


ゴール（完成したリーフレット）

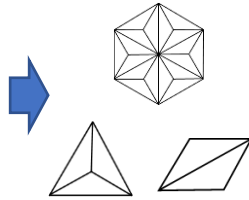
単元の導入に、単元末に解決してほしい学習課題（紹介リーフレットの作成）を提示することによって、子供たちは常に目的意識を持って、毎時間の学習課題に取り組むことができます。

単元末に、解決してほしい学習課題を設定し、指導のポイントを逆向きにイメージする取組
～宇城市立三角中学校（1年数学）～

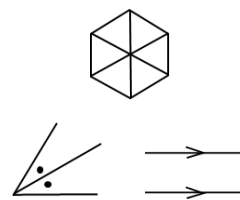
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）	
垂直二等分線、角の二等分線、垂線等の作図方法を活用し、基本となる図形をつなぎ合わせて「麻の葉」や「矢絣」の模様を作図する姿。	
単元を通した学習課題	単元で働かせる見方・考え方
日本の伝統的な模様は、「麻の葉」や「矢絣（やがすり）」があります。これらの模様は、どのようにしたら作図できるだろうか。	「麻の葉」や「矢絣」の模様は、合同な図形の集まりであることに着目し、図形の移動や基本の作図を統合して活用すること。



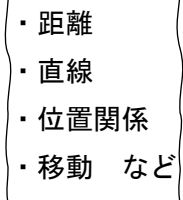
ゴール（麻の葉）



基本となる図形の発見



基本の作図



定義や用語の意味理解

単元に入る前に、単元で学習したことを総動員して解決してほしい学習課題（麻の葉模様の作図）を明確にイメージしておくことによって、それに向けて、毎時間の身に付けさせたい資質・能力も明確にイメージできるようになります。